

8. ^{かしも}加子母花づくり会議

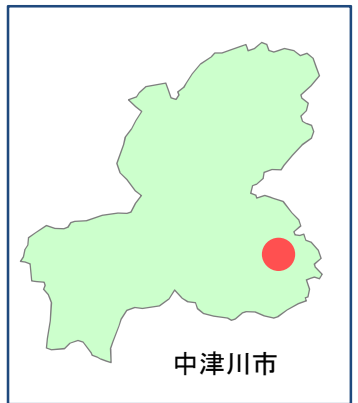
～ 住民総出の花づくり 地域を動かす子ども達 ～

キーワード

自然・景観

国内観光

子ども(教育・体験)



育てた花苗を移植する中学生



育苗の指導を受ける中学生



国道沿いに移植した色とりどりの花

活動のきっかけ

◆加子母の中学生が、国道沿いのゴミ拾い美化運動の一環として、地域の有志が行っていた花植え活動に関わったことをきっかけとして昭和59年に会議を設立

取組概要

- ◆中学生が花苗を育て、地域住民総出で国道257号線沿いの約10kmを中心に花（ベゴニア）を移植。また同時に、草刈り、ゴミ収集などの周辺美化活動を実施
- ◆花の管理（水やり、草刈りなど）や枯れた花の片付けを地域住民で実施

活動の効果

- ◇地域全体による花植えと花の管理により、景観美化や清掃の意識が高まり、観光面でも夏から秋の風物詩として地域住民や観光客に広く親しまれる
- ◇中学生を含む住民総出の花づくりは、地域活性化や青少年の育成、生涯教育にも寄与
- ◇景観美化地域の拡大や同じ花植え活動を行っている隣接する付知地区と情報共有し、連携活動を計画
- ◇昭和59年から30年以上続く住民総出の活動そのものが、中学校と地域の歴史となっている

加子母花づくり会議

中津川市加子母3519番地2(中津川市役所)
TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

9. NPO法人 ポランの広場

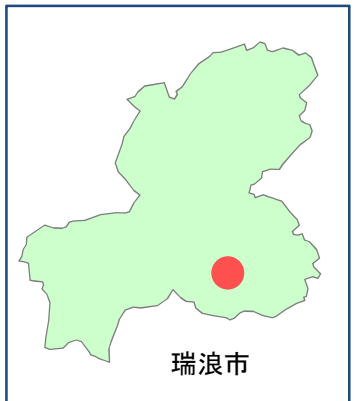
～ 農を生かした自給生活エンジョイライフ
(都市住民が羨むハッピー&ヘルスライフ) ～

キーワード

子ども(教育・体験)

地産地消

定住・移住



瑞浪市



高齢者、地元住民への宅配弁当づくりの様子



トレーラーハウスとログハウス



農産物加工体験(小学生)

活動のきっかけ

- ◆地域産業の中心だった陶磁器関連業が低迷する中で、若者の地域外流出や少子高齢化などの様々な課題を解決して、地域を活性化しようと地域住民が集まり平成18年にNPO法人を設立

取組概要

- ◆パイプハウスで、ブドウ、各種野菜、椎茸、アマゴの養殖など各種農林水産物の生産を実施
- ◆工房「しあわせの杜」で地元農産物を加工し、直売施設「きなあた瑞浪」での販売や地元高齢者宅への弁当宅配を実施
- ◆トレーラーハウス、ログハウスを整備して、宿泊・定住型の農業体験を提供

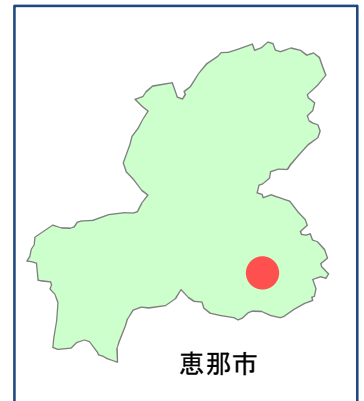
活動の効果

- ◇農業生産、農産物加工、農業体験、遊休農地・空き家対策、都市と農村の交流、農村景観の保全など様々な分野への取組と効果の発現
- ◇農業体験参加者が、200名から400名(H23→H27)に増加
- ◇活動内容の周知宣伝などにより、会員やボランティアが年々増加。取組も単独から任意団体や会社・大学等との連携へ移行
- ◇活動により、地元高齢者や女性雇用の場、高齢者の憩いの場・地域住民の集まりの場を創出

NPO法人 ポランの広場

瑞浪市陶町水上267-1

TEL:0572-65-2358 FAX:0572-65-2358



恵那市

10. 特定非営利活動法人 さかおり たなだ 恵那市坂折棚田保存会

～ 都市・農村との交流による
坂折棚田の支援を深める保全活動 ～

キーワード

自然・景観

伝統・継承

国内観光



石積塾による石積体験の様子



棚田オーナーによる稲刈り



田の神様灯祭り

活動のきっかけ

- ◆平成15年に第9回全国棚田サミットが坂折棚田で開催されたのを機に、任意団体「坂折棚田保存会」を設立。平成20年に特定非営利活動法人として認定

取組概要

- ◆棚田オーナー制度による米作りの他、田の神様灯祭り、棚田フォトコンテスト、石積塾、炭焼塾、など各種イベントを開催し都市住民との交流を実施
- ◆棚田ブランド開発事業により「さかおり棚田米」の販売や棚田米を原料とした純米酒「くろくわ」「千古乃岩」の開発・販売

活動の効果

- ◇棚田オーナーが、18組から80組(H23→H27)へ増加
- ◇オーナー制度を通じた都市住民（個人・企業）と協力して、棚田の景観を保全
- ◇「さかおり棚田米」の販売額が、110万円→340万円(H23→H27)へ増加
- ◇各種体験学習の実施による伝統的な技法の保全・継承や、体験交流を通じて地域農業を活性化

特定非営利活動法人 恵那市坂折棚田保存会
恵那市中野方町字坂折782-1
TEL:0573-23-2032 FAX:0573-23-2046

11. 特定非営利活動法人 農村景観日本一を守る会

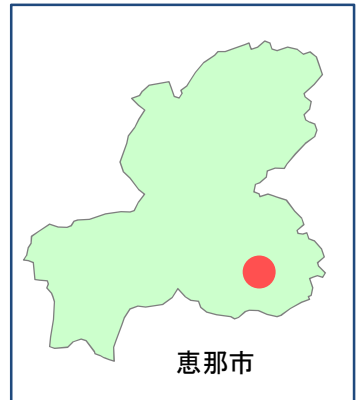
～ 800余年の米づくりと5年目の蕎麦づくり ～

キーワード

自然・景観

「食」の提供・活用

定住・移住



茅葺き職人による茅葺き整備



企業と連携した田植えの様子



農村景観日本一の展望所より

活動のきっかけ

- ◆平成元年に「農村景観日本一」の称号を受けるも地域が活性化するまでには至らず10年が経過し、改めて景観の重要性を再認識
- ◆老朽化しながら唯一残っていた「茅葺きの家」を改修し、平成22年に農村体験型宿泊施設「茅の宿とみだ」を開設

取組概要

- ◆中山間地域で米、そばを栽培し、企業研修の受入れや農業体験を実施。収穫した農産物は食事として提供
- ◆他団体や企業との連携による景観日本一の展望所整備、景観保全のための草刈り、地域の高齢者を中心としたボランティアによる観光案内を実施

活動の効果

- ◇景観整備に関わるボランティアを通じて、農村景観日本一の称号を地域住民が一人一人意識することで、農業農村との関わりが再認識され、地域農業継続と景観保全に寄与
- ◇遊休農地を活用したそばの作付け面積が、28aから65a（H24→H28）に増加
- ◇利用客の増加で収益が上がり、ボランティアを雇用形態転換

特定非営利活動法人 農村景観日本一を守る会
恵那市岩村町富田2024
TEL:0573-43-4021 FAX:0573-43-4021

12. 奥矢作移住定住促進協議会

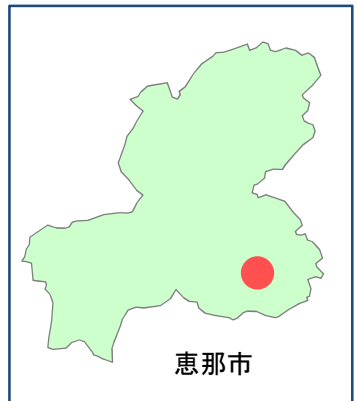
～ めざそう空き家「ゼロ」の農山漁村 ～

キーワード

雇 用

6次産業化

定住・移住



恵那市



古民家リフォーム塾～床下の改修～



リフォーム塾で改修した拠点施設
結の炭家(ゆいのすみか)



料理研修～猪・鹿のジビエ料理～

活動のきっかけ

- ◆地域の高齢化、過疎化、担い手不足、耕作放棄地の増加等により農林水産業が衰退する中で、平成12年の「恵南豪雨災害」を機に、地元の有志が地域の課題を解決するために集結し、平成23年に組織を設立

取 組 概 要

- ◆移住希望者が購入・賃借した空き家を地元大工の指導のもと、古民家リフォーム塾参加者やボランティアが改修
- ◆移住前に地域の文化や自然を体験するイベントを開催し、地域を体感する機会を創出
- ◆移住後は就農・就労支援のほか、田舎暮らしを支援

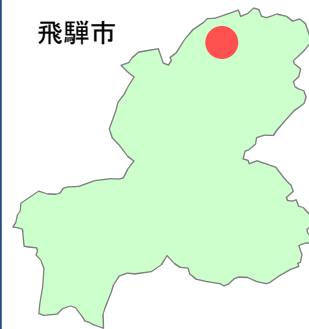
活 動 の 効 果

- ◇活動により65名が移住し、最大36軒あった空き家が4軒まで減少(H23→H27)
また、移住に伴い小中学生が増加し、地域に活気
- ◇イベント等による交流人口が約1,000人から約7,000人(H23→H27)と約7倍に増加
- ◇平成26年度は若者が2名就農、平成27年度は2名が林業に就職
- ◇移住者が「串原・里山づくりの会」を設立し放置林の再生に取り組むとともに、新たな雇用も創出

奥矢作移住定住促進協議会

恵那市串原827番地

TEL:0573-52-2217 FAX:0573-52-2808



13. 株式会社 ありがとうファーム

～ すべての人につながいと居場所がある。有機農業と福祉で、ひとと自然に優しい地域コミュニティの再生 ～

キーワード

6次産業化

医療・福祉

その他(都市と農村の共生・対流)



稲刈り(農業体験)に参加された皆さん



障がい者施設でのラベル貼り作業の様子と「ひだっこシール」



味噌づくりセットと自社で生産した米、トマトを使用した甘酒

活動のきっかけ

- ◆以前は千葉県で営農。3.11震災を機に飛騨市へ移住。地域住民の支援により営農を再開
- ◆地域住民への恩返しに何か出来ないかと考えていたところ、NPO法人アースアズマザーと出会い、農福連携コミュニティ創り構想に共感し、平成21年に株式会社を設立

取組概要

- ◆「飛騨市有機農業推進協議会」を設立し、有機農業を目指す新規就農者の受入れや加工品の開発
- ◆「ひだっこシール」を作成し、商品のラベル貼りを福祉関係NPOへ委託し農福連携を実施
- ◆農業体験を通じた都市住民との交流により飛騨ファンづくりを推進

活動の効果

- ◇栽培から加工までを一連の流れで行うことで、新たな雇用を創出
- ◇生活困窮者を受け入れ、社会復帰に向けた生活訓練や就労準備としての作業訓練を行い、1名就業するなど。自立へのきっかけづくりの場を創出
- ◇障がい者を受け入れ、作業訓練後に社員として1名を雇用

株式会社 ありがとうファーム

飛騨市神岡町西1302

TEL:080-5233-6844 FAX:0578-82-3419



14. ふるさと^{とちお}と^{くらぶ}枋尾里山倶楽部

～ 里山の未来を紡ぐ自創自給プロジェクト ～

キーワード

「食」の提供・活用

定住・移住

その他(集落再生・コミュニティの再構築、都市農村交流)



里人塾(自然の恵みを学ぶ)



都市住民と耕作放棄地の再生



郷土食を次世代へ「おときのごはん」

活動のきっかけ

- ◆過疎化による少子・高齢化により集落の存続に集落の13世帯が共通の危機感を認識
- ◆集落の現実と向き合うため集落の総点検を実施し、築100年を超える古民家を改修することにより集落の再生を目指す組織を平成21年に設立

取組概要

- ◆改修した古民家を地域コミュニティ施設、田舎暮らしの短期滞在施設として活用
- ◆「枋尾里人塾」、「子ども寺小屋エコキャンプ」、「かなごの森づくり」など都市住民との交流活動を実施
- ◆葬儀や法事での「おときのごはん」を復活させ、郷土食を伝承

活動の効果

- ◇地域が抱える課題を地域住民と都市住民が考え活動する「枋尾里人塾」へ、過去6年間で約800人が参加
- ◇集落住民同士が話し合う機会が増え連帯感が高まり、地域づくりを軸としたコミュニティの再構築、高齢者の知恵の活用・継承に寄与
- ◇地域の祭礼の役者に枋尾里人塾に参加した都市の若者を受け入れ、伝統文化を保存・継承

ふるさと枋尾里山倶楽部

郡上市明宝二間手579-2

TEL:090-7695-8527 FAX:0575-87-2386